

第25回獣医学特別セミナー

最近確認された国内外の新興・再興ウイルス感染症（エボラウイルス病，MERS，SFTS等）の流行状況と今後の課題

2015年 10月17日（金）

16:30-18:00

iCOVER 1階101（形態構造学実習室）

講師：西條政幸 博士

（国立感染症研究所ウイルス第一部長）



2014年から15年にかけて西アフリカ（ギニア，シエラレオネ，リベリア）でかつてない大きな規模でエボラウイルス病が流行し，2015年8月26日までにWHOの発表によると，累積患者（疑い例を含む）数が28,000人にのぼる。

過去5年間に新興・再興ウイルス感染症として認知されるべき感染症，上記のエボラウイルス病流行の他に，中国におけるトリインフルエンザウイルスH7N9，中国・韓国・日本で流行していることが明らかにされた重症熱性血小板減少症候群（SFTS），中東で流行が明らかにされ，かつ，最近では韓国で輸入感染患者が源となって比較的大きな規模で流行した中東急性呼吸器症候群（MERS）が挙げられる。

これらの感染症の特徴は，全ての病原体は動物由来ウイルスであり，致死率が極めて高いということである。そして，これらの病原体の自然宿主が存在し続ける限り，これらの感染症が流行し続ける，または，繰り返し流行することを示している。

これらの感染症の流行状況と今後求められる研究課題等を解説したい。

★ 教員・学生の積極的な参加をお願いします！ ★

連絡先：前田 健 (5887)
加納 聖 (5883)
清水 隆 (5895)

共同獣医学部

